

高等学 校

平成 2 8 年度

# 教育研究員研究報告書

商 業

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
1	評価方法の現状	2
2	評価基準	2
3	身に付けさせたい力	3
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	5
1	研究構想	5
2	検証授業	6
VI	研究の成果	2 3
VII	今後の課題	2 4

<b>研究主題</b>	<b>「社会を生き抜く力」を育むビジネス教育と評価方法の在り方について</b>
-------------	---

## I 研究主題設定の理由

平成 28 年 8 月、文部科学省は、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」(以下、「審議のまとめ」)において、育成すべき資質・能力として、「何を知っているか、何ができるか」、「知っていること・できることをどう使うか」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という三つの柱を示している。生徒が主体的に学び、自分自身の人生と社会の在り方を結び付け、多様な人との対話の中で自らの考えを広げ、授業等で身に付けた資質や能力を様々な課題解決に生かすことができるよう学びを深めていくことは重要である。

商業科では、「課題研究」や「総合実践」の科目をとおして、課題の解決を図る学習や実践的な活動を行ったり、マーケティング分野の商業科目である「マーケティング」や「商品開発」においても主体的、実践的な活動の機会を増やす取組を行ったりしている。また、検定資格に資する教育を積極的に進め、検定の合格実績等を上げてきた。こうしたことから、生徒は将来に役立つ知識や技術の習得に励み、専門性を生かした進路実現を果たしている。

しかし、現状として、生徒は、各種検定試験のような、正誤問題や多肢選択問題に関しては、自信をもって答えを述べるができるが、自分自身の考えを述べる際、判断の根拠や理由を明確に示しながら論理的に述べることなどについては課題が見られる。

本部会では、このような現状は、教員による授業の在り方に課題があると考えた。特に、評価方法については、学習の最終場面における測定可能な定期考査や制作物、調査レポート、プレゼンテーションの内容などを評価することが中心であり、生徒が思考している場面を評価する方法が確立されていない。

このことを踏まえ、「生徒が授業をとおして、課題に対してどのように考え、どのような力を身に付けることができたか」という学習の成果を的確に捉える必要がある。そこで、社会を生き抜く力を育むビジネス教育と評価方法の在り方を研究することとした。

教員は、まず、学校教育全体を通して育成したい生徒の姿と、その姿を実現するために授業をとおして生徒に身に付けさせたい力を設定する必要がある。次に、そうした力を育成するための学習活動を構築しなければならない。そして、身に付けさせたい力がどの程度身に付いているのかを把握し、その後の授業や学習の改善に生かす必要がある。

「社会を生き抜く力」を育むビジネス教育と評価方法の在り方を検討するに当たり、各科目の単元や授業の目標との関連を意識することが重要である。つまり、「どのような力を身に付けさせるために、どのような教育活動が必要となるのか」、「それぞれの身に付けさせたい力の実態を把握するためには、どのような評価方法が適しているのか」という視点で教育活動や評価方法を適切に選択することが重要である。

また、「審議のまとめ」では、現行学習指導要領の 4 観点に対して、学校教育法第 30 条第 2 項 82 が定める学校教育において重視すべき三要素(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」)を踏まえて 3 観点に沿った整理が検討されている。このことを踏まえ、単元等の目標に準拠した観点別評価を適正に行う必要がある。その際、毎回の授業で全ての観点から見取るのではなく、単元や題材をとおしたまとまりの中で、学習・指導内容と

評価の場面を適切に設定していくことが大切である。

さらに、企業や若者を取り巻く環境の変化を背景に、経済産業省では、基礎学力や専門知識に加え、これらをうまく活用していくための社会人基礎力を意識的に育成していくことが今まで以上に重要であると提唱している。このことから、生徒に身に付けさせたい力を明確にし、学習目標を設定する必要がある。

これらを踏まえ、主体的・協働的な学習の指導をとおして、社会を生き抜く力を育むとともに、生徒が成長していく過程を可視化し、評価できるよう次のように考えた。

- ① 教員同士で共有化された評価基準を設定する。
- ② ルーブリック評価表を導入し、妥当性及び信頼性のある評価方法を取り入れる。
- ③ ワークシート等を工夫し、生徒が思考する場面を可視化する。

本部会では、以上の点を踏まえ、「社会を生き抜く力」を育むビジネス教育と評価方法の在り方について」を研究主題とし、研究を進めることとした。

## Ⅱ 研究の視点

### 1 評価方法の現状

「高等学校におけるアクティブ・ラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査 2015 第一次報告書」(東京大学-日本教育研究イノベーションセンター共同調査研究)や、本部会による調査研究によると、アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業は、科目によって差があるものの各学校において意識され徐々に浸透し始めていることが分かった。

一方、評価基準を明確にしたアクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業の実践とともに評価方法の工夫が十分とは言えないことが分かった。これまでの評価方法は、「思考力・判断力・表現力」を評価する際、学習の最終場面において測定可能な学力や制作物、発表内容を評価することが多く、特に、「思考力」に関しては、ブレインストーミング等で生徒が思考している場面における評価基準の明確さが十分でないことや、科目担当者同士で「思考力」に関する評価基準の共有が十分でないことなどから、生徒が思考している場面や、主体的・対話的で深い学びの過程を適切に評価することに課題があることが分かった。

### 2 評価基準

本部会では、ケーススタディなどを活用した探究的で主体的・協働的な学習における評価基準の設定、及びルーブリック評価表の活用、評価基準に基づいたワークシート等を活用した評価方法の工夫が課題として研究することとした。

そこで、課題を解決する方法として、「商業科目におけるアクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業で活用する共通のルーブリック評価表」(以下、「共通ルーブリック評価表」)を作成することとした。これは、商業科目に限らず、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な評価表となることをねらいとしている。生徒に身に付けさせたい力を達成度と共に示した「共通ルーブリック評価表」は、各科目の単元や題材において具体的に活用できるように留意し作成した。そして、科目に合わせて応用したルーブリック評価表を活用することで、評価の妥当性を確保するとともに、信頼性のある評価を実現する。

### 3 身に付けさせたい力

本部会では、これまでの商業科における授業は、知識の暗記・再生、暗記した解法パターンの適用など、「何を学んだのか」という結果を求めることを重視していた傾向があり、結果的に知識伝達型の教育にとどまっている。また、授業等をとおして、生徒自身が身に付けている知識・技術をどのように関連付けているのか、多様な人との対話の中から何を学び自らの考えに生かしたのかという生徒が思考している場面についての評価に課題があると捉えた。

「審議のまとめ」では、グローバル社会や震災等予測不能な社会において生徒が備えるべき能力として「課題探究能力」を挙げている。そこで、学校生活をとおして、生徒自身で計画を立てて探究活動を行ったり、他者と協力して問題解決に取り組んだりすることを経験させながら、将来、企業や社会に貢献していく力を生徒に身に付けさせなければならない。

一方、経済産業省では、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から成る「社会人基礎力」として定義付けしている。本部会では、この社会人基礎力を踏まえ、「社会を生き抜く力」、特に「考え抜く力」を育成する必要があると捉えた。

## Ⅲ 研究の仮説

本部会では、研究仮説を「アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業において、ルーブリック評価表を活用するとともに、評価基準に基づいたワークシート等の活用によって、生徒が思考する場面などの学びの過程を可視化することができ、より適正な評価につながる」と設定した。具体的には、下記のとおりである。

- 1 商業科目における「共通ルーブリック評価表」を作成することによって、評価方法の統一を図り、妥当性及び信頼性のある評価ができる。また、「共通ルーブリック評価表」は、科目の特性を生かしながら、どの科目においても応用し活用することができる。
- 2 ルーブリック評価表(評価基準)に基づいたワークシートの工夫によって、生徒が思考する場面を可視化できる。
- 3 ルーブリック評価表(評価基準)を生徒に提示することによって、生徒は単元等の到達目標や履修目標を明確に把握するとともに、学習意欲の向上を図ることができる。

## Ⅳ 研究の方法

アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業において活用する「共通ルーブリック評価表」を作成する。作成においては、評価の観点「思考力・判断力・表現力」の中において、特に生徒が思考する場面に関する評価基準とし、身に付けさせたい力に応じた到達目標や履修目標を設定する。そして、「共通ルーブリック評価表」を科目の特性に合わせて応用し、アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業時の冒頭において、生徒及び教員で明確にする。また、評価基準に基づいたワークシート等を工夫、活用することによって、生徒が思考する場面などの学びの過程を可視化できたかを検証する。さらに、可視化されたものが妥当性及び信頼性のある評価につながるかを検証する。

次ページに記載している表は、本部会が作成した「共通ルーブリック評価表」である。

商業科目におけるアクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業で活用する  
共通のルーブリック評価表

達成度 身に付け させたい力		レベル A	レベル B 【履修目標】 1	レベル C	レベル D 【到達目標】 2	レベル E
①	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	与えられたテーマから問題を設定し、その問題を多面的に捉え、取り上げた理由など、根拠に基づいて述べることができる。	与えられたテーマから問題を設定し、その問題を取り上げた理由など、根拠に基づいて述べることができる。	与えられたテーマから問題を設定し、その問題を取り上げた理由など、述べることができる。	与えられたテーマから問題を設定しているが、その問題を取り上げた理由などの内容が十分ではない。	与えられたテーマから問題を設定しているが、その問題を取り上げた理由などを述べるできない。
②	課題の解決に向けたプロセスに応じて計画する力	具体的な計画に則して実行できる。	具体的な計画を立て、自ら行うべき内容を明らかにできる。	課題の解決に向けたプロセスに応じて、大まかな計画を立てることができる。	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、計画を立てようとしている。	課題の解決に向けたプロセスを明らかにすることができない。
③	新しい価値を生み出す力	自ら新たな視点での課題解決策を提案できる。	自ら根拠に基づいた課題解決策を提案できる。	自ら指示された範囲の課題解決策を提案できる。	他人のアドバイスがあれば指示された範囲の課題解決策を提案できる。	指示された範囲の課題解決策を提案できない。
④	自分の意見をわかりやすく伝える力	相手の理解を深めることを意識しながら、事例等を挙げ、自分の意見を述べることができる。	相手が興味を引くように工夫しながら自分の意見を述べることができる。	相手が理解できるように配慮し、自分の意見を述べることができる。	相手のことを意識して、自分の意見を述べることができる。	伝えたい内容を相手に伝えることができない。
⑤	相手の意見を丁寧に聴く力	相手が振り返り、考えるための質問をすることができる。	相手の意見に則した質問をすることができる。	相手の意見を記録し整理することで、理解を深めようとすることができる。	相手の意見を理解しようとしている。	相手の意見を理解しようとしていない。
⑥	意見の違いを理解する力	違う意見に対し、比較・検討することで新たな解決策を提案できる。	意見の違いを理解し、分類することで関連性を特定できる。	意見の違いの理由を理解するために、質問するなどして、意見の違いを裏付けることができる。	意見の違いを理解しようとしている。	意見の違いを理解しようとしていない。

1 履修目標：授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標

2 到達目標：授業において、生徒が最低限身に付ける内容を示す目標

## V 研究の内容

### 1 研究構想

全体テーマ **思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善**

高校部会テーマ **新しい時代に求められる資質・能力を育むための、主体的・協働的な学習の指導と評価について**

#### 各教科等における「新しい時代に求められる資質・能力」とは

【個別の知識・技術】 商業の各分野について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解、関連する技術

【思考力・判断力・表現力等】 ビジネスに関する表現を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性をより良い社会の構築を目指して、自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度

#### 高校部会テーマにおける現状と課題

【現状】 アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業改善が浸透してきたが、授業の到達目標に応じた評価方法の工夫が十分とは言えない。評価は、学習の最終場面における測定可能な定期考査の素点、制作物や発表内容が主であり、特に、生徒が思考している場面等の評価方法について、具体的な工夫が十分ではない。

【課題】 ケーススタディなどを活用した探究的で主体的・協働的な学習における評価基準の設定、及びルーブリック評価表の活用、評価基準に基づいたワークシート等を活用した評価方法の工夫

#### 高等学校本部会主題

「社会を生き抜く力」を育むビジネス教育と評価方法の在り方について

#### 仮 説

- 1 商業科目における「共通ルーブリック評価表」を作成することにより、評価方法の統一を図り、妥当性及び信頼性のある評価ができる。また、「共通ルーブリック評価表」は、科目の特性を生かしながら、どの科目においても応用し活用することができる。
- 2 ルーブリック評価表(評価基準)に基づいたワークシートの工夫によって、生徒が思考する場面を可視化できる。
- 3 ルーブリック評価表(評価基準)を生徒に提示することによって、生徒は単元等の到達目標や履修目標を明確に把握するとともに、学習意欲の向上を図ることができる。

#### 具体的方策

アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業において活用するルーブリック評価表を作成する。特に、生徒が思考する場面に関する評価基準を明確にし、身に付けさせたい力に応じた到達目標や履修目標を設定し、生徒及び教員で共有にする。さらに、評価基準に基づいたワークシート等を作成、活用することによって、生徒の学びの過程を可視化する。

#### 検証方法

ルーブリック評価表を生徒及び教員で明確に共有するとともに、評価基準に基づいたワークシート等の活用によって、生徒が思考する場面などの学びの過程を可視化できたかを検証する。さらに、可視化されたものが妥当性及び信頼性のある評価につながるかを検証する。

## 2 検証授業

### 実践事例 I

教科名	商業	科目名	マーケティング	学年	第2学年
-----	----	-----	---------	----	------

#### (1) 単元(題材)名、使用教材(教科書、副教材)

ア 単元名 第9章 販売促進 1 販売促進の重要性

イ 使用教材 「マーケティング」 実教出版株式会社

今回の授業では、課題テーマを「あなたはカフェの店長です。駅前にカフェをオープンさせ人気店にするにはどうしたら良いか」と設定し協働学習を行った。また、アクティブ・ラーニングの手法の一つであるジグソー法によって授業展開した。進行に関しては、ICTを利用し、学習の流れと時間配分、評価基準を明確にした上で進めた。また、協働学習中は、タイマーを投影し時間管理を生徒に意識させながら進めた。

#### (2) 単元(題材)の目標

マーケティング活動における販売促進の役割を認識させ、企業等が抱える課題等を分析し、課題を解決するための方法を論理的に思考する。

#### (3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
マーケティング活動において、基本的な知識が身に付いている。	課題に合わせて自ら思考し、グループ内で意見を交換することができる。	設定した課題に対して、解決に向けたアイデアを提案することができる。

#### (4) 単元(題材)の指導と評価の計画(3時間扱い)

時間	学習活動	評価の観点			評価規準(評価方法など)
		知	思	主	
第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>提示された企業等が抱える課題(ケース)等について、解決するためのアイデアを自ら考える。</li> <li>ウェビング(思考ツール)を活用し、自分のアイデアを可視化する。</li> </ul>	●	●		<ul style="list-style-type: none"> <li>マーケティング活動に関する基本的な知識を活用することができる。ア [ワークシート]</li> <li>与えられたケースについて、課題解決策を考えることができる。イ [観察]</li> </ul>
第2時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時で行った課題解決策について、個人がグループ内で報告し合い、ウェビングを活用してグループとしての解決策を考えまとめる。</li> </ul>		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えに加え、他者の意見等を丁寧に受け入れ、グループとしての解決策を提案することができる。イ [観察] ウ [ワークシート]</li> </ul>
第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで話し合った内容を発表する。</li> <li>他グループの発表を聞き、自分自身やグループのアイデアと比較・検討し、自らのアイデア出しの課程を振り返る。</li> </ul>		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者を意識した発言・発表ができる。ウ [ワークシート]</li> <li>他者の意見等を理解し、自らの考えとの比較等ができる。イ [ワークシート]</li> </ul>

#### (5) 本時(全3時間中の2時間目)

ア 本時の目標

グループ内において、前時にウェビングを活用して考えた意見を根拠や理由を明確にしなが論理的に相互に発表できる。また、グループ内のそれぞれの意見をウェビングの活用によってまとめ、それぞれの意見を融合、改良した一つの課題解決策としてまとめることができる。

イ 仮説に基づく本時のねらい

(ア) 生徒が自らアイデアを出している場面、つまり、思考している場面を可視化させるため思考ツールの一つであるウェビングを活用する。ウェビングに記入された内容や記入量によって、授業中の観察で見逃す可能性がある部分を評価する。

(イ) 本部会で作成した「共通ルーブリック評価表」の身に付けさせたい力③(報告書 p. 4 参照)を基に応用したルーブリック評価表をワークシート(ウェビング)に記載し、評価基準を提示することによって、「何ができるようになるか」を意識するとともに、思考の場面を可視化する。

ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価基準・方法
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標と評価基準を確認する。</li> <li>前時にアイデア出しをした、自分のウェビングを再度、確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価基準及び、到達目標を明確にし、生徒の学習活動が活発になるように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価基準について確認し、学習活動に取り組みようとしている。ア〔観察〕</li> </ul>
40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の意見を聞き、自分のウェビングに必要なことをメモする。</li> <li>グループでの意見、考えを共有し、グループでウェビングを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ全員で意見交換を行い、気づいたことを積極的に取り入れるよう、机間指導を行う。</li> <li>グループ活動が20分経過したところで評価をする。</li> <li>実現可能なアイデアかを市場分析や消費者ニーズ等の根拠を基に、より深い思考ができるよう促す。</li> <li>グループによる協働学習の状況を把握しながら、活発な意見交換ができるように適宜助言を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの理由(根拠)に基づいたアイデアを提案することができる。ア〔観察〕</li> <li>イ〔観察、ワークシート〕</li> </ul>
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動について、振り返りを行う。</li> <li>次回のグループ発表に向けて確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りが可視化できるよう、リフレクションシートに記入させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りにおいて、学んだことを具体的に記入できる。イ〔ワークシート〕</li> </ul>

(6) 本時の振り返り

ア 仮説1の検証

商業科目における「共通ルーブリック評価表」を作成することによって、評価方法の統一を図り、妥当性及び信頼性のある評価ができる。また、「共通ルーブリック評価表」は、科目の特性を生かしながら、どの科目においても応用し活用することができる。

「共通ルーブリック評価表」の身に付けさせたい力③を応用した評価基準は下表のとおりである。なお、下線部が本単元及び本時に合わせて内容を変更した箇所である。

【「共通ルーブリック評価表」③を本単元及び本時に応用したルーブリック評価表】

	レベルA	レベルB	レベルC	レベルD	レベルE
新しいアイデアを生み出す力	自ら新たな視点での <u>アイデア</u> を提案できる。	自ら根拠に基づいた <u>アイデア</u> を提案できる。	指示された範囲の <u>アイデア</u> を提案できる。	他人のアドバイスがあれば <u>アイデア</u> を提案できる。	指示された範囲の <u>アイデア</u> を提案できない。

評価が妥当性及び信頼性のあるものと検証するには、このルーブリック評価表を活用した全ての教員の評価に大きな差が生じないことが必要である。そこで、検証授業では、本部会の教育研究員及び本校の教員等 12 名に参加していただき、授業中の生徒の取組やワークシートへの記入内容について評価を行った。そして、評価者(教員等)12名の中から3名、被評価者(当該生徒)3名を抽出し検証した。抽出した評価の結果は右表のとおりである。生徒bの評価に注目すると、教員①及び教員②の評価「B」に対して、教員③の評価「D」のように、2ポイントの差がついたものがあるものの、教員によって評価の差が3ポイント以上になったり、教員3名の評価の差がそれぞれ2ポイント以上ずつ異なったりするような大差はなかった。また、教員及び生徒の抽出を数回繰り返し検証したところ同様の結果が得られた。このことから、「共通ルーブリック評価表」を応用したルーブリック評価表は、妥当性及び信頼性のある評価につなげることができると捉えた。

＜評価の結果＞

	教員①	教員②	教員③
生徒 a	A	A	A
生徒 b	B	B	D
生徒 c	A	A	B

## イ 仮説2の検証

ルーブリック評価表に基づいたワークシートの工夫によって、生徒が思考する場面を可視化できる。

### (ア) ウェビングの使用

本時ではウェビングをワークシートとして活用しアイデア出しを行った。なお、このワークシートには、ルーブリック評価表を併記し、生徒に到達目標を意識させながら取り組ませた。また、前時までに学んだマーケティングの基礎知識や、今回の課題テーマに関する市場分析結果などの情報を根拠や理由としてどのようにアイデアと関連付けるかという視点から取り組ませた。この結果、生徒自身が学んだ知識や情報が掛け合わさっていく過程や、グループ内での意見交換によって更に深まっていく思考の過程を可視化することができ、机間指導中の確認や、授業後に提出させたワークシートへの記入内容の確認によって評価がしやすくなった。一方、生徒自身にとっても、知識や情報を深め広げていく方法を視覚的に実感するとともに、発表時においては、アイデアの根拠や理由を明確に示しながら論理的に述べることができるようになった。また、他者のアイデアと比較・検討し、更にアイデアを深めようとする意欲も見られた。

### (イ) リフレクションシートの使用

本時では、授業の振り返りと自己評価を目的としたリフレクションシートを活用した。ルーブリック評価表を併記したウェビングのワークシートに加え、このリフレクションシートの活用によって、教員が見取ることができなかった個人内評価をとおして見取することに留意した。グループ内での発言回数やウェビングの記入方法などの形式的な活動を評価するものではなく、生徒が自ら目標をもち、アイデアの出し方を見直しながら学習を進め、その過程を自己評価して新たな学習につなげるといった、粘り強く知識・技術を身に付け、思考・判断・表現しようとしているかどうかという、意思的な側面を捉えて評価するよう心がけた。その結果、記述内容から見取ることができた。

## ウ 仮説3の検証

ルーブリック評価表を生徒に提示することによって、生徒は単元等の到達目標や履修目標を明確に把握するとともに、学習意欲の向上を図ることができる。

到達目標や履修目標を明確にすることによって、主体的・協働的な活動の中で、「何が評価されるのか」について、教員と生徒で共有することができ、達成度や改善点が分かりやすくなった。生徒からは、根拠に基づいた(教科書の内容等)意見が多く聞こえるようになり、学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら自分の能力を引き出し、学習したことを生活や社会の中の課題解決に生かしていくという姿勢が見られるようになった。

## (7) 今後の課題

本時の課題テーマ「駅前でカフェをオープンする」は、マーケティングを学んでいる生徒にとっては、様々な視点から考察できるものだったため、グループ発表の際、アイデアの比較が十分ではなかった。ルーブリック評価表及び、評価基準に基づいたワークシートの効果を最大限に生かすためには、生徒の実態等に合わせた課題テーマの適切な設定が課題である。

また、自己評価に関して、本時ではリフレクションシートを活用したが、加えてルーブリック評価表に沿った自己評価を行い、教員と生徒に評価の齟齬があった場合、その原因を確認、改善を図り、生徒の高い学習意欲につなげられるようにすることも課題である。

## 実践事例Ⅱ

教科名	商業	科目名	商品開発	学年	第3学年
-----	----	-----	------	----	------

### (1) 単元(題材)名、使用教材(教科書、副教材)

ア 単元名 第7章 総合演習「事業計画の再構築」

イ 使用教材 「商品開発」 実教出版株式会社

「商品開発」における実習の概要(企業と連携した授業)

都内ショッピングモールのキッズスペースを運営している企業と連携した授業を実践しており、年度当初から、商品開発の基本的な知識・技術、商品開発の手順や過程について学習を進めている。

一方、実際の企業を誘致し、連携授業をととして商品開発の実習も行なっている。4月から6月までの授業では、3名又は4名のグループごとに実習を進め、企業が提案したコンセプトを基に、環境分析や市場分析を行い企画書の作成に取り組んだ。9月から12月の授業では、この企画書を基に企画の再構築・ブラッシュアップを図り、コンセプトに沿った商品開発・システムの構築など、事業計画に合わせて12月の商品提案までの実習を進めてきた。

### (2) 単元(題材)の目標

商品企画書の課題を見出し、事業計画におけるブラッシュアップの重要性を理解する。

クライアントの要求を理解し、事業計画の再構築をすることの重要性について理解する。

### (3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
商品企画書における再構築の重要性について理解し、事業計画書を適切に作成することができる。	グループ内で意見を交換し、企画書の実現可能性を考え、課題を踏まえ、再検討ができる。再検討後に作成した事業計画書がわかりやすく表現され、またそれをわかりやすく説明することができる。	自ら開発した企画書をもとに、再検討に対しての実習に関心を持ち、意欲的に取り組む実践的な態度を身に付けている。グループの問題点を把握し、今後の計画を立てることができる。

### (4) 単元(題材)の指導計画と評価の計画(6時間扱い)

時間	学習活動	評価の観点			評価規準(評価方法など)
		知	思	主	
第1・2時	・1学期に完成させた企画書をグループごと再確認し、思考の過程を再確認する。	●			・商品開発の手順を理解し、基本的な知識を身に付けている。ア〔観察〕
	・自分たちの企画書の実現可能性を協議し、問題点や課題点を挙げる。類似商品、サービスを調査し、新たな視点を取り入れた提案になっているかを協議し、事業展開した時のコスト面やリスクを考察する。		●	●	・相手の意見を丁寧に聴き、問題点や課題等を挙げるができる。イ〔観察〕 ・日ごとの活動を明らかにし、活動記録に記入することができる。 ウ〔ワークシート〕
第3・4時	・前時で取り組んだ内容について、グループで再確認、報告し、企画書を完成させる。		●		・グループ協議の中で、改善策を含めた新たな提案をすることができる。 イ〔観察・ワークシート〕
	・企画書を基に、企業担当者への提案内容をまとめる。 ・12月の最終提案までのスケジュールを協議し、まとめる。	●		●	・改善策を含めた新たな提案を盛り込み、企画書を作成することができる。 ア〔ワークシート〕 ・日ごとの活動を明らかにし、活動記録に記入することができる。 ウ〔ワークシート〕
第5・6時 (本時)	・商品企画書を企業担当者に提示し、発表する。企業担当者との質疑応答をする。 ・企業担当者からの問題点や課題をまとめるとともに、その改善策をグループで協議する。		●		・企業担当者との質疑応答の中で、新たな問題点や課題を把握し、グループ内でその情報を共有し、改善策を導き出すことができる。 ウ〔観察・ワークシート〕
	・グループで協議した改善策を基に、事業計画を立案し、12月までのスケジュールを確定する。	●		●	・改善策を基に、事業計画を考え、スケジュール表を完成することができる。 イ〔ワークシート〕 ・日ごとの活動を明らかにし、活動記録に記入することができる。 ウ〔ワークシート〕

(5) 本時(全6時間中の5・6時間目)

ア 本時の目標

企業担当者との質疑応答後、グループ内でお互いの考えを論理的に協議し合い、グループとしての改善策を講じる。また、事業計画の方向性や作業スケジュールを確立する。

イ 仮説に基づく本時のねらい

(7) 生徒自らが考えたアイデアに至るまでの思考の過程をワークシートに記入し可視化させ、記入された内容や記入量によって、授業中の観察で見逃す可能性がある部分を評価する。また、グループとしての改善策を生徒同士で共有することの重要性を理解させる。

(4) 本時の到達目標を提示することにより、生徒に身に付けさせたい力を明確にすることで、学習意欲の向上を図る。

ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標と評価について確認する。</li> <li>・改善策を含めた企画の再提案をグループ内で協議するとともに共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標を明確にすることをとおして、生徒一人一人の取組が段階的に活発になるよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標と評価について確認し、到達目標を目指して活動している。</li> <li>ウ [ワークシート]</li> </ul>
40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業担当者との質疑応答</li> <li>・質疑応答が終了したグループは、新たな問題点や課題を分析、把握し、改善策をグループ内で協議する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業担当者に対して、主体的に質疑応答させる。</li> <li>・様々な視点に立って、問題点や課題を考えるように促す。</li> <li>・生徒のアイデアや意見をグループ内で共有しアイデアが深まるように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クライアントからの指摘や助言を参考にした上で、グループ内での協議内容を記録し、理解を深めことができる。</li> <li>イ [ワークシート]</li> </ul>
20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善策を生かした新たな企画書を根拠や理由を明確に示しながら作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業担当者との質疑応答において学んだことを記録させ、振り返り学習ができるよう促す。</li> <li>・新たな企画がどのような根拠に基づいたものか明確にするように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善策や新たな企画書を根拠や理由に基づいて作成することができる。</li> <li>ア [ワークシート]</li> </ul>
20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画を立案し、スケジュールを確定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事業計画になるようグループ内で十分検討させる。</li> <li>・今後のスケジュールが実現可能な計画性になるようシュミレーションさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事業計画を立案することができる。また、計画的なスケジュール表を作成できる。</li> <li>ア [ワークシート]</li> </ul>
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動日誌に記入する。</li> <li>・次回以降の活動を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動記録の意義を確認し、今後の活動に役立つように記入させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動記録を工夫して作成することができる。</li> <li>ウ [ワークシート]</li> </ul>

(6) 本時の振り返り

ア 仮説1の検証

商業科目における「共通ルーブリック評価表」を作成することにより、評価方法の統一を図り、妥当性及び信頼性のある評価ができる。また、「共通ルーブリック評価表」は、科目の特性を生かしながら、どの科目においても応用し活用することができる。

「共通ルーブリック評価表」の身に付けさせたい力③を応用した評価基準は下表のとおりである。なお、下線部が本単元及び本時に合わせて内容を変更した箇所である。

【「共通ルーブリック評価表」③を本単元及び本時に応用したルーブリック評価表】

	レベルA	レベルB	レベルC	レベルD	レベルE
新しい改善策及び新企画生み出す力	自ら新たな視点での改善策及び新企画を提案できる。	自ら根拠に基づいた改善策及び新企画を提案できる。	指示された範囲の改善策と新企画を提案できる。	企業担当者のアドバイスがあれば改善策及び新企画を提案できる。	指示された範囲の改善策及び新企画を提案できない。

本時では、評価者(教員等)を4名とし、全8グループ(1グループ4名)の授業におけるグ

ループワークの観察と共に、ワークシートへの記入内容から評価した。抽出したあるグループの評価の結果は右表のとおりであった。生徒 a、生徒 b、生徒 c の 3 名の評価に注目すると、評価者 4 名のうち 3 名が同じ評価であり、もう一人は、1 ポイントの差であった。また、生徒 d の評価については、評価者 4 名全員が同じ評価であった。さらに、他のグループの生徒の評価においても、各評価者間の評価に 2 ポイントの差がついたものがあったものの、評価者 4 名の評価の差が 3 ポイント以上になつたり、2 ポイントずつ異なつたりするような大差はなかった。

＜評価の結果＞

生徒 \ 教員	教員 ①	教員 ②	教員 ③	教員 ④
生徒 a	A	B	A	A
生徒 b	B	C	B	B
生徒 c	C	D	C	C
生徒 d	D	D	D	D

このことから、「共通ループリック評価表」を応用したループリック評価表は、評価方法の統一を図るとともに、妥当性及び信頼性のある評価につなげることができた。

### イ 仮説 2 の検証

ループリック評価表に基づいたワークシートの工夫によって、生徒が思考する場面を可視化できる。

これまでの授業では、グループ内において協議した結果のみをワークシート等に記入させたり、発表させたりしていた。つまり、グループ協議の結果に至るまでのそれぞれの生徒が思考していた段階をワークシート等に記入させることはほとんどなかった。そのため、生徒が思考している場面についての評価方法は曖昧であった。そこで、今回、生徒が思考する場面を可視化するために、グループ協議において、誰がどのような意見を発言し、誰の意見が採用され、どのようにグループとしてのアイデアを決定したのか、その過程が分かるように記入することができるワークシートの工夫を行った。なお、このワークシートにはループリック評価表を記載し、グループ協議において、それぞれの生徒が評価の観点を意識しながらアイデアを記入するように促している。



＜ワークシートに記入する様子＞

ワークシート上でアイデアを考える手法としては、ウェビングの手法(ある 1 つのキーワードから思いつく言葉を書き出し、次々とつなげ、思考を広げる手法)を用いた。そして、グループ内の生徒がそれぞれアイデアのキーワード等をワークシートに記入していく。その際、どの生徒が記入したかが分かるように、生徒が使用するペンの色を別々にした。

このように、グループ内の生徒が記入するペンの色分けをしたことで、それぞれの生徒がどのように思考し、グループとしてのアイデアがどのように決定していったのかが分かりやすくなった。また同時に、誰が、どの程度、意欲的にアイデアを考えていたかが把握しやすくなった。さらに、生徒は、グループ内のそれぞれの生徒が思考したアイデアや、そのアイデアに関する問題点・改善点等を可視化し共有することによって、グループとしてのアイデアを決定するために必要な根拠や理由を整理するとともに、多角的な視点からアイデアを検討するようになった。

この結果、ループリック評価表に基づいたワークシートの工夫によって、生徒が思考する場面を可視化することができた。また、生徒は、ワークシート等に記入した内容を適宜振り返ることで、自らの学習の在り方について自己評価するようになるとともに、グループ内で相互評価をし、その後の取組に生かすようになった。

## ウ 仮説3の検証

ルーブリック評価表を生徒に提示することによって、生徒は単元等の到達目標や履修目標を明確に把握するとともに、学習意欲の向上を図ることができる。

今回の検証授業では、授業開始時において、ワークシートに記載したルーブリック評価表について説明をした。その際、単元の目標と共に本時の到達目標等を理解させ、評価基準を意識しながらグループ協議等を行うように促した。

この単元では、これまでも、実際の企業との連携授業を展開し、生徒の勤労観や職業観を育むとともに、企業のプロジェクトを成し遂げる責任感やチームに対する働きかけ力の向上をねらいとしていたが、今回、ルーブリック評価表を提示し、到達目標等を明確にすることで、ほとんどの生徒が主体的に取り組むようになった。

具体的な生徒の変容として次の結果が得られた。

- ・1学期に提案した企画内容を振り返り、生徒自ら問題点や改善策を見出す学習を深めることができた。
- ・自らのアイデアを可視化することの重要性やグループ内での意見を共有することの重要性を理解するとともに、その活動が、商品企画書の作成や今後の事業計画の立案に生かされることの意義について理解を深めることができた。
- ・今回のテーマにおける課題等を把握し、その解決策をグループで話し合う時に、何を根拠にその解決策が導き出されたのかをグループ内で共有することができたり、グループ協議において課題解決への方向性が逸脱しそうになったときに、原点に戻ることができたりなど、グループ協議を円滑に実施するようになった。
- ・連携企業の担当者への質問をする際、根拠等に基づいて論理的に話せるようになった。

### (7) 今後の課題

今回の検証授業では、本時の目標に合わせて「共通ルーブリック評価表」を応用したルーブリック評価表を作成した。今後、全ての科目や単元、授業ごとにルーブリック評価表を作成する上で、これからも検証を重ね、妥当性及び信頼性のあるルーブリック評価表を作成する必要がある。評価の観点については、生徒に身に付けさせたい力を学校教育目標と関連させながら、多様な評価方法を適正に組み合わせることが重要である。評価は、各時間において、生徒の活動を細かく見取ることが大切である。ルーブリック評価表をはじめ、提出物に評価をつけるパフォーマンス評価、日誌や活動記録のようなポートフォリオ評価など、それらを組み合わせ、総合的な判断のもと生徒の評価をつけることができ、その評価一つ一つに妥当性及び信頼性をもたせることが今後の課題である。

### 実践事例Ⅲ

教科名	商業	科目名	プレゼンテーション技術	学年	第3学年
-----	----	-----	-------------	----	------

#### (1) 単元(題材)名、使用教材(教科書、副教材)

ア 単元名 プレゼンテーション技術 第4章1プレゼンテーションの実施と反省

イ 使用教材 「30時間でマスター プレゼンテーション+POWER POINT2010」  
実教出版株式会社

#### (2) 単元(題材)の目標

学習した知識を活かし、与えられたテーマについて考え、解決する力を身に付ける。

与えられたテーマに沿って、自らのアイデアを創造する。

グループ活動において、自らの意見を他者へ分かりやすく説明する力を身に付ける。

プレゼンテーションソフトを活用し、自らのアイデアを具体的に説明する力を身に付ける。

与えられたテーマに沿って、グループでのアイデアを決定し、論理的に発表する。

#### (3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・エントリーシート、ストーリーシートの基本的な記入方法が身に付いている。</li> <li>・発表用スライドに関する技術について、基礎的・基本的な知識が身に付いている。</li> <li>・発表用の原稿作成ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識を活用し、与えられたテーマについて考え、グループ内で意見をまとめることができる。</li> <li>・与えられたテーマに沿って、自ら思考し、グループ内で意見を交換することにより、実現可能なビジネスアイデアを創造できる。</li> <li>・グループでの意見を全体に発表することができる。</li> <li>・作成した資料等を活用し、他者へ分かりやすく説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら創造した内容に対して、グループの問題点を把握し、他者の意見を尊重し、新しいビジネスアイデアを考案することができる。</li> <li>・グループ活動で考案した新しいビジネスアイデアを発表することができる。</li> </ul>

#### (4) 単元(題材)の指導と評価の計画(3時間扱い)

時間	学習活動	評価の観点			評価規準(評価方法など)
		知	思	主	
第1時	・学習してきた知識を活用し、課題を分析し、グループで意見をまとめる。		●		・与えられたテーマに沿って、現状を分析し、自ら思考する。 イ [ワークシート・観察]
第2時 (本時)	・テーマに沿った自らのアイデアを創造する。		●		・根拠に基づいて考え、他者と意見を比較できる。イ [ワークシート・観察] ・与えられたテーマに沿って、現状を分析し、自ら思考する。 イ [ワークシート]
第3時	・グループ活動を通し、自らの意見を明確に伝えとともに、他者の意見も享受する。 ・グループ内でのアイデアを元に、エントリーシートに下書きをする。		●	●	・グループ内で意見を交換することにより、実現可能なビジネスアイデアを創造できる。イ [ワークシート・観察] ・自らの思考に加え、他者の意見を享受し、グループとしての意見をまとめる。 ウ [ワークシート・観察]
第4時	・エントリーシートを元に、ストーリーシートの作成をする。	●			・エントリーシート、ストーリーシートの基本的な記入方法が身に付いている。 ア [エントリーシート、ストーリーシート]

第5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーリーシートに沿って、プレゼンテーションソフトを活用し、発表用のスライド、発表用原稿の作成をする。</li> <li>・ストーリーシートに沿って、プレゼンテーションソフトを活用し、発表用のスライド、原稿の作成をする。</li> </ul>	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表用の原稿を論理的に作成することができる。ア [発表用原稿]</li> <li>・発表用スライドに関する技術について、基礎的・基本的な知識が身に付いている。ア [発表用スライド]</li> </ul>	
第6時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハーサルをする。</li> </ul>			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ協議で考案した新しいビジネスアイデアを発表内容に適切に取り入れている。ウ [観察]</li> <li>・聞き手の立場や聞き手が主体となるプレゼンテーションを意識し、ブラッシュアップや修正を重ね練習をしている。ウ [観察]</li> </ul>
第7時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの発表</li> <li>・エンタリースートの完成と今回のテーマの振り返りを行う。</li> </ul>		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した資料等を活用し、他者へ分かりやすく説明することができる。イ [発表]</li> <li>・エンタリースート、ストーリーシートの基本的な記入方法が身に付いている。ウ [エンタリースート、ストーリーシート]</li> </ul>

### (5) 本時(全7時間中の1時間目)

#### ア 本時の目標

(ア) 自らの体験や他者の体験をもとに、根拠に基づいて考えたことを他者に伝え、また他者の意見も享受し、グループ内で意見をまとめる。

#### イ 仮説に基づく本時のねらい

(イ) ワークシートの工夫によって、生徒が思考する場面の活動を可視化する。

(イ) 「共通ループリック評価表」を応用した本時用のループリック評価表によって、統一した評価基準で評価できる。

(イ) 授業開始時において、本時の到達目標を提示することによって、生徒に身に付けさせたい力を明確にし、学習意欲の向上を図る。

#### ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を説明し評価について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価及び到達目標を明確にし、生徒の学習活動が活発になるように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標と評価について確認し、到達目標を目指し、活発的に活動している。ウ [観察]</li> </ul>
32分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられたテーマに沿って、自ら学習してきた知識を生かして考えたアイデアをまとめる。(8分)</li> <li>・自ら考えた意見を他者へ伝えるとともに、他者の意見を享受し、グループ内で意見をまとめる。(24分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習してきた内容を踏まえ、何が良いプレゼンテーションかを考えさせる。</li> <li>・他者の意見を否定せず、建設的な話し合いになるように促す。</li> <li>・自らの意見を論理的に伝えるように促す。</li> <li>・それぞれに意見の問題点を挙げるとともに、解決策を話し合うように促す。その際、自分の意見と他者の意見の調和や修正を行う。</li> <li>・本時はここで評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられてテーマを基に現状を分析し、アイデアを提案できる。イ [ワークシート・観察]</li> <li>・自らの意見を伝え、他者の理解を深めながら、新たな視点での課題解決を提案できる。イ [ワークシート]</li> </ul>
15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの発表を行う。(12分)</li> <li>・各自において、ループリック評価表を基に自己評価する。(3分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で扱ったテーマに沿って、グループにおけるアイデア内容を振り返り、まとめる。</li> <li>・本時はここで評価をする。</li> <li>・授業を振り返らせ、ループリック評価表に基づいて、適正な自己評価をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの意見を全員に対して論理的に分かりやすく発表することができる。イ [発表内容]</li> <li>・活動記録を作成することができる。ウ [ワークシート、ループリック評価表]</li> </ul>

(6) 本時の振り返り

ア 仮説1の検証

商業科目における「共通ルーブリック評価表」を作成することにより、評価方法の統一を図り、妥当性及び信頼性のある評価ができる。また、「共通ルーブリック評価表」は、科目の特性を生かしながら、どの科目においても応用し活用することができる。

「共通ルーブリック評価表」の身に付けさせたい力①及び④を応用した評価基準は下表のとおりである。

【「共通ルーブリック評価表」①を本単元及び本時に応用したルーブリック評価表】

	レベルA	レベルB	レベルC	レベルD	レベルE
現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	与えられたテーマから学習してきたことを活かし、そのことを多面的に捉え、取り上げた理由など、根拠に基づいて述べることができる。	与えられたテーマから学習してきたことを活かし、その問題を取り上げた理由など、根拠に基づいて述べるができる。	与えられたテーマから学習してきたことを活かし、その問題を取り上げた理由など、述べることができる。	与えられたテーマから学習してきたことを活かし、その問題を取り上げた理由などの内容が十分ではない。	与えられたテーマから学習してきたことを活かし、その問題を取り上げた理由などを述べるができない。

【「共通ルーブリック評価表」④を本単元及び本時に応用したルーブリック評価表】

	レベルA	レベルB	レベルC	レベルD	レベルE
自分の意見をわかりやすく伝える力	自らの体験や他者の体験を踏まえ、事例などをあげ、新しい提案を述べるができる	自らの体験や他者の体験を踏まえ、事例などをあげ、自分の意見を述べるができる	自らの体験か、他者の体験を元に、自分の意見を述べることができる	自分の意見を述べるができる	伝えたい内容を相手に伝えるができない

本時では、評価者(教員等)を3名とし、全11グループ(1グループ3名)の授業におけるグループ協議の観察と共に、ワークシートへの記入内容から評価した。抽出したあるグループの評価の結果は右表のとおりであった。生徒aの3名の評価に注目すると、評価者3名のうち2名が同じ評価であり、もう一人は、1ポイントの差であった。また、生徒b及び生徒cの評価については、評価者3名全員が同じ評価であった。さらに、他のグループの生徒の評価においても、各評価者間の評価に2ポイントの差がついたものがあつたものの、評価者3名の評価の差が3ポイント以上になるような大差はなかった。

＜評価の結果＞

教員 生徒	教員 ①	教員 ②	教員 ③
生徒a	B	A	B
生徒b	B	B	B
生徒c	A	A	A

このことから、「共通ルーブリック評価表」を応用したルーブリック評価表は、評価方法の統一を図るとともに、妥当性及び信頼性のある評価につなげることができた。評価基準が明確であることは、グループディスカッションや生徒個々の思考部分などにおいても、ワークシートと併せて可視化することで、生徒に不利益を被らない評価ができる。

## イ 仮説2の検証

ルーブリック評価表に基づいたワークシートの工夫によって、生徒が思考する場面を可視化できる。

本時では、生徒自らの経験などを基に、多くのアイデアや意見を出させるために、図のようなワークシートを作成した。また、ワークシートには、「他者の意見」及び「グループの意見(結論)」を記入する欄を設けた。なお、このワークシートにはルーブリック評価表を記載し、グループ協議において、それぞれの生徒が評価の観点を意識しながらアイデアを記入するように促している。また、ワークシートに記載しているルーブリック評価表の下に自己評価する欄を設け、自分がどの段階の目標が達成したか、その評価とした理由を記入できるようにし、本時の学習活動について振り返りができるようにした。

	良いプレゼンテーションとは何か？	

図 ワークシート

グループ協議においては、ワークシートを自分用とグループ用で使い分け、他者の考え等を記入するなど活用させた。その際には、グループの誰がどの意見を発言したかを明確にする為、生徒の発言ごとにペンの色を変え記入させる工夫をした。グループ内においてどのようなことが話し合われたのか、また、誰のどの意見を基にグループでの意見を導き出したかが明確に判断できるようになった。

その結果、生徒が与えられたテーマに沿って、自ら思考している部分の可視化や、他の生徒の考え、グループでのまとめなど、グループ内の活動を可視化することができた。

## ウ 仮説3の検証

ルーブリック評価表を生徒に提示することによって、生徒は単元等の到達目標や履修目標を明確に把握するとともに、学習意欲の向上を図ることができる。

授業開始時に、ワークシートに記載しているルーブリック評価表を説明することで、生徒はグループ協議において、評価基準を意識しながら活動する様子が見られた。また、授業終了直前に記入させたワークシートの自己評価欄には、「次回は評価Aになるようにする」、「根拠を基に論理的かつ具体的に意見を述べるができなかった」、「学習して身に付けていた知識を発表の際、生かすことができなかった」などが記載されていた。このことから、ルーブリック評価表の提示によって、生徒の学習意欲の向上を図ることができた。また、生徒が課題テーマをとおして具体的にどのような活動をしているのか、どのように自己評価をしたのかということが明確になり、教員にとって、今後の授業改善につなげることができた。

アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業において、ルーブリック評価表を活用することで、生徒にとって、今まで授業等で学んだ知識や技術をはじめ、自らが体験してきたこと、他者の体験を聴くことなどをとおして、課題テーマに沿って、根拠等を基に論理的に発表する力が養われた。

一方、グループの座席配置は、1グループ3人とし、中央の生徒を他の2名が向かい合うような配置とした(写真参照)。その結果、中央の生徒がファシリテーターとしての役割を果たしながら、活発的に意見交換ができた。また、授業の進行



<グループ協議の様子>

については、個人で思考する時間、グループ協議をする時間、グループ内での結論を出す時間、代表者がグループの結論を発表する時間など、指定された時間を意識しながら活動するために、タイマーを黒板に投影し、時間配分を明確にした。

本時の授業をとおして、生徒が自ら思考する力や、他者の意見やグループでの結論が何を根拠に導き出されたかを可視化することができた。また、生徒は、本単元の各授業において学習を振り返るようになり、学習の定着率が高まった。4月当初の生徒は、アイデアを出す際、一人8個程度を記入するのが一般的であったが、ワークシートを活用することによって、一人平均18個程度記入できるようになった。さらに、自己評価シートにおいても、当初は、1行程度の記入が一般的であったが、3行以上記入する生徒が多くなった。

生徒が思考する場面、グループ内で意見を出す時間、結論を出す時間など時間的意識が高まり、スムーズな意見交換ができるようになった。授業ごとで何に重きを置くかを生徒に考えさせることで、多くの知識の構築を図ることができるようになってきたと考える。

#### エ 今後の課題

##### (7) ワークシートや評価基準の工夫

1時間の授業における評価の観点を絞り込む必要がある。また、アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業を行う上で、単元やそれぞれの授業において、生徒にどのような力を身に付けさせたいかを明確にするとともに、身に付けさせたい力をワークシート等に連動させる工夫が更に必要である。教員自身が、どのようなワークシートが有効的で、どうすれば授業時において生徒の活動を可視化できるかなどの教材研究の研鑽が重要である。

##### (4) 評価表の提示方法など

生徒に提示するルーブリック評価表は、教員用と生徒用に分け、生徒へは分かり易く書き換えた評価表を提示する必要があると感じた。文言を生徒に分かりやすく書き換えることで、生徒が自らの作業工程において評価を記入しやすくなるを考える。また、教員と生徒の評価に相違があった場合の対応とともに、未然に防ぐために説明等が大切である。

##### (5) ワークシートと発表方法

本授業において、今までの知識を活かし、自らの考えを伝える力や他者の意見を享受し、新たな提案をする力の向上が図れた。しかし、他者の意見に縛られ、自らの意見が生かし切れていなかった生徒が見受けられた。また、ワークシートに記入している内容や、机間指導している最中に聞こえた内容は同じであっても、グループの代表者が発表している間に、発表者が自らの私見を述べてしまい、グループ内でまとめた意見内容と発表した内容とで不一致なグループも見受けられた。

##### (6) 座席の工夫

3人で話し合う際には、真ん中に座っているファシリテート役の生徒がどうしても活発に取り組んでいるように見えてしまうため、全ての生徒を同じように評価するのは困難であった。その為、生徒の座席を毎時ローテーションすることや、ディスカッションの際のグループの座席の人数や配置などの工夫も必要である。また、生徒を評価する適切な時間帯に課題がある。どの時点でどの生徒をどのように評価すべきかについて考えていく必要がある。

実践事例Ⅳ

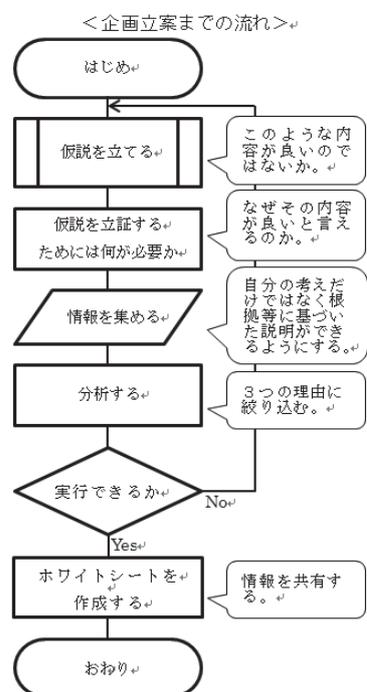
教科名	商業	科目名	プログラミング	学年	第2学年
-----	----	-----	---------	----	------

(1) 単元(題材)名、使用教材(教科書、副教材)

ア 単元名 流れ図の知識を生かして論理的思考力を身に付ける。

イ 使用教材 独自作成プリント

今回の授業では、生徒がプログラミング学習サイト「プログラミン」(文部科学省)のシステム担当者の立場となり、顧客ターゲットとなる子供達が「プログラミン」を使ってプログラミングをしてみたいと思うような利用促進の方法を企画することを課題テーマとした。また、企画立案の際は、右図の流れ図に従ってグループ協議を行った。



(2) 単元(題材)の目標

アルゴリズムについての一般的な概念を学習し流れ図を作成してきたことを生かして、現代社会の課題を調査し、それを解決するための方法をグループで論理的に考察する。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
プログラミング学習サイト「プログラミン」の操作や論理的に考えることの大切さについて理解しようとしている。	提示された課題について思考を深め、グループ内で意見を交換することができる。	進んでグループワークに取り組み、自らの考えを深めようとしている。

(4) 単元(題材)の指導と評価の計画(8時間扱い)

時間	学習活動	評価の観点			評価規準(評価方法など)
		知	思	主	
第1時	・旅行予約システムについてのトラブルを解消するための方策をグループで考える。		●		・課題解決のために必要な事柄を考えながら調査しようとしている。イ〔観察〕
第2時	・グループで考えた方策を発表するとともに他のグループの発表を聞いて、様々な方策を理解する。		●		・発表時に自らの考えを理解してもらおうとしている。相手のことを理解しよう意識しながら発表を聞くことができる。イ〔評価シート〕
第3時	・前時の話合いや発表を振り返り、相手に理解してもらえようように説明するための「2つの事柄の関係性を正しく認識する能力」について学び、物事を筋道立てて考え、分かりやすく相手に伝えることができ、相手の納得度を高める論理的な考え方について学習する。	●			・論理的に考える大切さやその方法について理解しようとしている。ア〔観察〕
第4時	・文部科学省が子供向けに開発したプログラミング学習サイト「プログラミン」の操作方法について学習する。	●			・左記「プログラミン」の操作について理解しようとしている。ア〔観察〕
第5時	・上記「プログラミン」のデモンストレーションプログラムについて考える。	●		●	・課題解決のために必要な事柄を考えながら調査しようとしている。ア〔観察〕 ・子供達がどのようなことに興味を抱いているのか、何が流行しているのか等の情報を収集し、ワークシートにまとめることができる。ウ〔ワークシート〕

第6時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標と評価について確認し、評価レベルAを目指して活動する。</li> <li>・子供達の心をつかむデモンストレーションプログラムについてグループで話し合い、グループとしての企画について考察する。</li> <li>・ホワイトボードシートやワークシートを用いて、グループ内における思考の過程を記録し、考えを共有する。</li> </ul>	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レベルA評価を目指して活動しようとしている。ア〔観察〕</li> <li>・相手の意見を丁寧に聞き、改善策を提案することができる。イ〔観察・ワークシート〕</li> <li>・グループで問題提起した内容に対して解決に向けたプロセスを明らかにし、ホワイトボードシートにまとめることができる。ウ〔ホワイトボードシート、ワークシート〕</li> </ul>
第7時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの企画に基づき、デモンストレーションプログラムを作成し、発表の準備をする。</li> </ul>			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のことを意識して、自分たちの意見を述べるができる。ウ〔観察〕</li> </ul>
第8時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで作成したデモンストレーションプログラムの内容を発表するとともに、他のグループの発表を聞いて、様々な企画を理解する。</li> <li>・自らの考えと比較し、自らの思考について振り返る。</li> </ul>		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表時に自らの考えを理解してもらうために努力している。相手のことを理解しよう意識しながら発表を聞くことができる。イ〔評価シート〕</li> <li>・ピラミッドストラクチャーを作成し、自らの考えをまとめようとしている。ウ〔ワークシート〕</li> </ul>

(5) 本時(全8時間中の6時間目)

ア 本時の目標

相手の意見を聞きながらグループの意見をまとめ、論理的に課題を解決する。

イ 仮説に基づく本時のねらい

(ア) 新たに作成した評価規準により、「思考」の観点を正當に評価する。

(イ) 商業科としての評価規準を作成し、複数の科目間において横断的に活用する。

(ウ) ルーブリック評価表を生徒に示すことで、生徒の学習活動が到達目標を意識したものに変わるように指導する。

ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標と評価について確認する。(3分)</li> <li>・自分の考えをまとめる。(2分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標を明確にし、生徒の取組が活発になるよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標と評価について確認し、到達目標を目指して活動しようとしている。ア〔観察〕</li> </ul>
	<p>発問： 小学校でプログラミングが必修化されます。文部科学省はプログラミング学習サイト「プログラミン」(プログラムを通じて、子供達に創ることの楽しさと方法論を提供することを目的とした、Webサイト)を子供向けに開発しました。あなたはこのサイトのシステム担当者です。この度、小学校高学年の子供達にこのサイトを紹介することになりました。そこで、子供達が「プログラミン」を使ってプログラミングをしてみたいと思うよう、子供達の心をつかむデモンストレーションを企画するよう上司から指示がありました。企画会議で話し合い、その内容を短時間で上司が把握できるよう報告して下さい。</p>		
40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で一人一人の考え方について報告し合う。(5分)</li> <li>・デモンストレーションプログラムに採用する内容を決め、その理由を含めて話し合う。(15分)</li> <li>・グループとしての考えを整理し、ホワイトボードシートにまとめ、グループで考えを共有する。(20分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1分で報告するためにタイマーを使用する。</li> <li>・グループ全員で意見を交換し、気付いた課題や解決方法について新たに創造できるよう発問を促す。</li> <li>・課題解決方法について、事実を調査し、より実現可能な考え方ができるよう生徒の思考を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の意見を記録し要点を整理しようとしている。ウ〔観察〕</li> <li>・相手の意見を記録し整理することで理解を深めようし、それに対する自らの意見を相手に伝えることができる。イ〔観察・ワークシート〕</li> <li>・三つの理由をあげ、企画を提案することができる。ウ〔ホワイトボードシート・ワークシート〕</li> </ul>
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動について、グループで感想を述べる。</li> <li>・次回の発表に向けてグループの目標を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ全員が感想を述べるよう留意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のことを理解しようとしている。ウ〔観察〕</li> </ul>

## (6) 本時の振り返り

### ア 仮説1の検証

商業科目における「共通ルーブリック評価表」を作成することにより、評価方法の統一を図り、妥当性及び信頼性のある評価ができる。また、「共通ルーブリック評価表」は、科目の特性を生かしながら、どの科目においても応用し活用することができる。

「共通ルーブリック評価表」の身に付けさせたい力⑤を応用した評価基準は次ページの表のとおりである。なお、下線部が本単元及び本時に合わせて内容を変更した箇所である。

#### 【「共通ルーブリック評価表」⑤を本単元及び本時に応用したルーブリック評価表】

	レベルA	レベルB	レベルC	レベルD	レベルE
相手の意見を丁寧に聴く力	話し合いの中で、ワークシートに記録した内容から、 <u>相手が自分の意見を振り返って新たな企画を考えるための質問をすることができる。</u>	話し合いの中で、ワークシートに記録した相手の意見に則した質問をすることができる。	話し合いの中で、相手の意見をワークシートに記録し整理することで理解を深めようとすることができる。	話し合いに参加し、相手の意見を理解しようとしている。	話し合いに参加せず、相手の意見を理解しようとしていない。

本時では、評価者(教員)を商業科教員12名とし、2グループ9名の生徒を中心に15分間における生徒の話し合いの様子を観察し、評価した。そして、被評価者(当該生徒)23名の中から2名を抽出し検証した。抽出した評価の結果は下表のとおりである。生徒aの評価に若干幅があるものの、各教員の評価に大差は見られなかった。また、教員及び生徒の抽出を数回繰り返し検証したところ同様の結果が得られた。なお、評価者12名の中には、初任者や10年以上など多様な教員経験年数の者がいたが、評価に大差が見られなかったことから、経験年数や技量に左右されない妥当性及び信頼性のある評価ができたと言える。

#### 〈生徒aの評価の結果〉

評価 教員	A	B	C	D	E
教員①				●	
教員②		●			
教員③			●		
教員④				●	
教員⑤			●		
教員⑥			●		
教員⑦				●	
教員⑧			●		
教員⑨			●		
教員⑩			●		
教員⑪			●		
教員⑫		●			

#### 〈生徒bの評価の結果〉

評価 教員	A	B	C	D	E
教員①	●				
教員②		●			
教員③	●				
教員④	●				
教員⑤		●			
教員⑥		●			
教員⑦	●				
教員⑧		●			
教員⑨		●			
教員⑩	●				
教員⑪	●				
教員⑫	●				

一方、評価者を対象にアンケートを実施したところ「生徒が話し合っている様子进行评估することは難しい」と回答した教員は91.6%と多かったが、今回、活用した「共通ルーブリック評価表」について、「妥当である」と回答したのは72.7%であった。自由意見の中には、「生徒同士のグループの話し合いをリードした人が高評価にならないように気をつける必要がある」、「評価基準は中心化傾向になる恐れがあるため4段階の方が良い」、「発表そのものを評価するよりも、その前段階の学習を評価するのは難しい」、「教員一人が全ての生徒を評価するのは難しい」、「生徒の性格を考慮しなければならない」など、ルーブリック評価表を応用する際の留意点や改善点など、更に妥当性及び信頼性を高めるためのヒントを得ることができた。

これらの結果から、「共通ルーブリック評価表」を応用し活用することで同じ科目を担当する教員間における評価の統一を図るとともに、特に、思考力の観点について、妥当性及び信頼性のある評価が可能であると言える。また、今回、活用したルーブリック評価表は、生徒の話合いの様子を観察しながら、生徒が思考する場面を評価することができたことから、他の科目においてもグループワーク等の活動を評価する際に活用できるはずである。

#### イ 仮説2の検証

ルーブリック評価表に基づいたワークシートの工夫によって、生徒が思考する場面を可視化できる。

生徒が考えていることを観察により評価することは難しい。そこで、生徒が思考している場面を可視化するために、本時では、自作プリントの「企画立案シート」を用いて、グループ内での話合いの様子を記録させた。これには、生徒が話合いにおいて相手の意見に対する自らの考えを記録することで、思考の過程を可視化し、自らの思考を整理するとともに、後日、話合いを振り返ることができるようにするという目的がある。

(ア) 自らの考えを相手に伝える。

- ① 自らの考えと他の生徒の考えをそれぞれ記入し、比較する。
- ② 他者の考えをまとめながら「良い」と思うキーワードには~~~~~(波線)、「疑問」に思うキーワードには\_\_\_\_(下線)を引き、相手の意見に対する自らの感想を記録する。

#### <生徒の企画立案シートの抜粋(仲間の考え)>

自分の考え

プログラミングで簡単なゲームを作って子供達に見せる。

他者(グループ内の仲間)の考え

- ① bさん 小学生は話合いの授業が多いのでワイワイと楽しくできることをアピールする。
- ② cさん 自分の好きなものをカタチにできるということをアピールする。
- ③ dさん 小学生は動画が好きなので流行しているものを作ってみせる。

(イ) 考えながら意見を交換する

- ① 他者の考えをまとめながら、賛成ならば○を、反対ならば×を付けることで相手の意見に対して自らがどのように考えたかを記録する。
- ② 記入された内容や分量により、話合いが活発に行われたかを把握する。その際、同じグループ内の生徒のワークシートと比較し、実際に話し合われた事項かどうかの整合性を確認する。

#### <生徒Bの企画立案シートの抜粋(話合いの記録)>

話合いの記録

- aさん 小学生に話を考えてもらい、それをプログラミングしてあげる。 ○  
aさん 実際にゲームを作ってみせてあげる。 ○  
cさん 人気ゲームを応用する。  
dさん aさん 芸人やタレントなど流行っている人やものを活用して宣伝する。 ×

(ウ) 論理的に説明する

- ① 考えた企画の理由を3つ挙げる。
- ② 同じグループ内の生徒のワークシートと比較し、企画内容や理由について、矛盾が

### <企画概要報告書のひな形>

私たちのグループの企画は、〇〇〇〇〇です。  
私たちがこのように考える理由は3つあります。  
〇〇〇〇〇だからです。  
そして、〇〇〇〇〇と考えました。  
つまり、〇〇〇〇〇ということになるからです。

ないかを確認する。

- ③ 「企画概要報告書」を作成し、物事を筋道立てて考え、分かりやすく相手に伝えることを意識して説明する。

#### (エ) 情報を共有する

- ① ホワイトボードシート(画鋸やセロハンテープが不要で、静電気で壁に貼り付き、ホワイトボード用マーカーが使用できる携帯用シート)に意見をまとめることで、他のグループの話合いの内容を知る。



<ホワイトボードシートの活用>

#### (オ) ワークシートの工夫

- ① 「企画立案シート」を作成するにあたり、それぞれに観点項目を設け、生徒が記入した内容から生徒が考えた内容を把握することができるよう工夫した。

このような「企画立案シート」を用いることによって、生徒は自らの思考の過程を明確に整理することができ、その結果、他の生徒との意見の違いを踏まえながらグループとしての意見をまとめることができた。また、教員も「企画立案シート」に評価の観点項目を設けることで、生徒が記入した内容から、その考えを把握するとともに、適切に評価することができた。

#### ウ 仮説3の検証

ルーブリック評価表を生徒に提示することによって、生徒は単元等の到達目標や履修目標を明確に把握するとともに、学習意欲の向上を図ることができる。

#### (ア) 生徒の変容

授業における課題テーマの設定を明確にし、ワークシートや授業展開を工夫することで、生徒は今まで以上に話合いが活発になるなど、積極的に取り組む姿勢が見られた。また、前時に生徒自身が思考し作成したワークシートと、本時にグループで思考し作成したワークシートへの記入状況から、生徒は、他者の意見を丁寧に聴き、考え、新たなアイデアを考えるなど、自ら思考している過程を把握しながら授業に取り組んでいることが分かった。さらに、生徒が話合いやワークシートを作成する中で、他者に自らの考えを意識的に伝えるとともに、丁寧に学習活動を進めようと努力している姿が印象的であった。このように、一斉授業の時よりも、アクティブ・ラーニングの視点に基づき、ルーブリック評価表を活用した授業が生徒一人一人の活動を深く見取ることが可能であることが分かった。

後日、生徒を対象にアンケートを実施したところ、本時の目標を意識して学習活動ができた生徒は95.4%であった。改めて、授業の動機付けの大切さを感じた。一方、「自分の意見を伝えることや相手の意見を聴きながらグループの意見をまとめたりすることは役立つと思う」と答えた生徒が100%だったのに対し、77.2%の生徒が「今回の授業のようにグループで話し合うことは好きではない」と答えた。「主体的・対話的で深い学び」の具体的な在り方は、生徒それぞれのコミュニケーション能力に応じて様々である。一人一人の発達や成長をつなぐ視点で資質・能力を育成し、学習内容を確実に身に付けるための協働学習に課題があることが分かった。

#### (イ) 生徒と教員の評価の差について

次ページの表は、23名の生徒のうち10名の生徒が本時の「思考力・判断力・表現力」(特に、思考力)の観点について、生徒が自己評価したものである。前述の(ア)仮説1の検証で教員が評価した生徒aと生徒bにおいては、生徒による自己評価と教員の評価において大差はなかった。また、他の生徒においても検証したところ同様の結果が得られた。

生徒による自己評価と教員の評価の差において、生徒は教員の評価が自己評価より低く過ぎれば努力することに違和感を覚え、高過ぎればこれ以上努力する必要はないと感じるようになる恐れがある。双方の評価に差がないことによって、学習意欲の向上につながることから、ルーブリック評価表の評価基準の明確さが重要である。

〈生徒の自己評価の結果〉

評価 生徒	A	B	C	D	E
生徒 a				●	
生徒 b	●				
生徒 c	●				
生徒 d		●			
生徒 e			●		
生徒 f				●	
生徒 g			●		
生徒 h			●		
生徒 i			●		
生徒 j			●		

#### (7) 今後の課題

前時に作成した生徒個人の考えをまとめたワークシートに多くのことを記入し、事前に十分調査した生徒のグループにおいては、本時の話し合いが円滑に進んでいた。一方、前時の取組が十分とはいえないグループは話し合いが活発に行えないため、生徒個人のワークシートの作成時において、その記入状況を把握した上で、個別に支援しておく必要性を感じた。

また、後日、生徒から「話し合いに夢中になって、ワークシートに十分記入できなかった」という話があった。思考する場面を可視化するためにも「話しながら必要事項を記録する」という技術を習得させなければならないと痛感するとともに、思考している場面を可視化するためのワークシートの更なる工夫が必要であると実感した。

## VI 研究の成果

これまで、主体的・協働的な学習を実践する上で、具体的で客観的な評価方法が確立されておらず、重大な課題として挙げられていた。本部会では、アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業において、ルーブリック評価表を活用するとともに、評価基準に基づいたワークシート等の活用により、生徒が思考する場面などの学びの過程を可視化することができ、妥当性及び信頼性がある適正な評価につながると考え研究した。また同時に、ルーブリック評価表を生徒に提示することにより、生徒は単元等の到達目標や履修目標を明確に把握するとともに、学習意欲の向上を図ることができると仮説を立て研究した。

本部会では、仮説1・2・3を立証するために、具体的な方策として、主体的・協働的な学習を実施し、「思考する」授業実践を行なった。

仮説1については、検証授業IからIVまでのそれぞれにおいて、「共通ルーブリック評価表」を応用し、各単元・各授業に合わせたルーブリック評価表を作成した。このルーブリック評価表を活用し、評価の検証をしたところ、それぞれの検証授業において、評価方法の統一を図るとともに、妥当性及び信頼性のある適正な評価につながることができた。また、「共通ルーブリック評価表」は、科目の特性を生かしながら、どの科目においても応用し活用することができることを立証することができた。

仮説2については、ルーブリック評価表に基づいたワークシートの工夫によって、生徒が思

考する場面を可視化することができた。ワークシートに生徒が思考している段階のアイデア等を記述させる中で、前時までの授業等で身に付けていた知識や技術を基盤に、他者の意見を丁寧に聴き、考え、新たなアイデアを考えている過程を把握することができた。ここでは、ワークシートにルーブリック評価表を記載すること、記入するペンの色を生徒別に設定すること、自己評価する欄を設けるなどの工夫によって、より生徒が思考している場面を可視化できることが分かった。同時に、単元や各授業に適した思考ツールの活用が大切であることが分かった。

仮説3については、ルーブリック評価表を生徒に提示することによって、生徒に単元等の到達目標を明確に把握させるとともに、学習意欲の向上を図ることができた。グループ協議やワークシートを作成する中で、評価基準を意識しながら、他者に自らの考えを根拠や理由を基に論理的に伝えようとする生徒の様子をそれぞれの授業で検証することができた。また、生徒を対象としたアンケートから、ほとんどの生徒が「授業の目標を意識して学習することができた」、「主体的・協働的な学習において評価基準を意識しながら学習することは、将来、役立つと思う」と回答していることなどから、学習意欲を向上させ、学びに向かう力を育むことができた。

## VII 今後の課題

本部会では、「共通ルーブリック評価表」を作成し、各科目・単元において応用、活用することで、妥当性及び信頼性のある評価につなげることができた。また、「社会人基礎力」（「考え抜く力」等）を踏まえた、評価の観点「思考力・判断力・表現力」における評価基準を明確にさせることが重要性であることが分かった。

評価の観点については、可能な限り多くの観点で評価することが望ましいと考えたが、今回の検証授業では、一つあるいは二つの観点に絞って実践することとした。今後は、教員が評価する上で、生徒数や時間に応じた適切な評価の観点及びその観点数を設定することが課題である。また、授業中の観察によって評価する場合、評価する適切な時間帯を想定することが大切である。どの時点でどの生徒をどのように評価すべきかについて考える必要がある。今回、ワークシートの工夫によって、生徒が思考している部分を授業中に観察しきれなかった生徒の活動について評価することができたが、更にワークシートを工夫する必要がある。

評価方法は、各学校の教育目標との関連において多様な評価方法から選択する必要がある。改めて、それぞれの把握したい力に適した評価方法を選択、開発し実践することが求められる。

都立商業高校では、産業界が求める「ビジネスを考えることができる生徒」を育成するために、1年次の「ビジネス基礎」において、新たに作成する補助教材「東京のビジネス」を使用し、東京や地域のビジネスをはじめ、身近な企業等についての調べ学習等を行うとともに、2年次には、新たに学校設定科目として、「ビジネスアイデア」を履修し、新たなビジネスの提案等に関する実践的な学習を行うことになっている。それぞれの授業では、企業等と連携を図りながら、アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業が展開される。

こうした状況の中、評価方法を妥当性及び信頼性のあるものとして確立させなければならない。そのために、学校教育全体を通して育成したい生徒の姿と、その姿を実現するために、各教科・領域に含まれる個々の単元や授業をとおして生徒に身に付けさせたい力を設定し、身に付けさせたい力を育成するための学習活動を構築する。そして、その力がどの程度身に付いているのかを把握し、その後の授業や学習の改善に生かす必要がある。

平成28年度 教育研究員名簿

高等学校・商業

学 校 名	課程	職 名	氏 名
東京都立葛飾商業高等学校	全日制	主任教諭	林 由美子
東京都立第三商業高等学校	全日制	主任教諭	本田 貴臣
東京都立大田桜台高等学校	全日制	主任教諭	横澤 準士
東京都立千早高等学校	全日制	主任教諭	◎早田 智洋

◎ 世話人

[担当] 東京都教育長高等学校教育指導課  
指導主事 久保 静生

平成28年度

教育研究員研究報告書  
高等学校・商業

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成28年度第142号〕

平成29年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 株式会社オゾニックス